

令和4年度堺市立図書館サービス評価 各図書館の取組み状況（案）

○堺区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	532,260 点	579,308 点	108.8 %
区民千人当たり	3,583 点	3,894 点	108.7 %
予約点数	29,447 点	33,703 点	114.5 %
区民千人当たり	198 点	227 点	114.6 %
レファレンス受付件数	14,310 件	11,854 件	82.8 %
区民千人当たり	96 件	80 件	83.3 %
来館者数(来館回数)	280,141 人(回)	365,482 人(回)	130.5 %
区民一人当たり	1.9 回	2.5 回	131.2 %

※堺区人口 148,785 人(令和5年1月1日時点)

※中央図書館、堺市駅前分館、図書館カウンター堺東を含む

※図書館カウンター堺東は貸出者数を来館者数とみなす。

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・様々な世代や図書館を利用していない層にも情報を届けられるよう、広報力を強化する必要がある。
また、広報する内容や時期、手段についても計画的に進める必要がある。
- ・地域資料の電子化の推進と利用促進。
- ・図書館カウンター堺東の事業検証と利用促進。

今年度の目標

中央図書館として以下の目標に取り組む。

1. 広報力を強化するため、新たな広報手段を構築する。【育む力】
2. 電子書籍提供サービス(電子図書館)に、堺市独自資料や市広報、各種計画といった行政資料をコンテンツとして収集・公開する仕組みを構築し、資料紹介・Eレファレンス等広報を含めて利用促進を図る。【創る力】
3. 障害者や日本語を母語としない人へのサービスを充実させるため、多文化資料の収集や提供に加え、図書館HPに多言語の利用案内や音声情報を掲載する。【学ぶ力】
4. 各館で設置しているティーンズエリアの発展、広報に取り組む。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. インスタグラムによる情報発信等新たな広報手段を構築			
サービスの具体的な方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。	
目的	広報力を強化し、いろいろな層に効果的に情報を発信できるようにする。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムアカウントを作成し、画像、動画による情報等を発信する。 ・庁内向け広報の「仕事に役立つ1冊」をリニューアルして発行する。 ・報道提供等外部媒体への発信を積極的に行う。 		
効果	幅広い年齢層に様々な情報を積極的に発信することで、市民の図書館への理解を深め、積極的な利用を促す。		
指標	インスタグラム発信数、仕事に役立つ1冊発行数、外部媒体への情報提供数		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramは3月開始。庁内向け広報「仕事に役立つ1冊」を、毎回テーマを設定して表題に載せるなどのリニューアルを行って10回発行。 ・報道提供回数3回。 		
効果検証	①妥当性	◎	紙媒体以外にも情報の形が多様になる中、いろんな手段で情報発信をすることが求められている。
	②インパクト	○	Twitterは毎日更新をし、常に新たな情報を見てもらえるようにした。
	③効率性	△	広報手段を広げることで利用者の利便性は上がると思われる。また、Instagramは各区から発信することで効率性を高めた。
	④協働の視点	—	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterは投稿回数449回(1月末時点)で、フォロワー数は前年度比221人増加している。毎年実施しているアンケートの結果でも図書館からの情報の取得源としてインターネットを挙げる人がR3年度の27%から今年度は46%となって広報さかいを上回った。インターネット上での情報源としてツイッターを挙げる人も増えたことから、ある程度幅広い広報手段の拡充はできたのではないか。 ・「仕事に役立つ1冊」で紹介した本は新刊を中心に41冊(2月発行分まで)。紹介した本の今年度の貸出回数は1冊あたり平均5.5回であった。今年度の購入一般書(1月末時点約20400冊、禁帯出資料除く)のうち、5回以上貸出に出ているものは9.2%であることから、資料の紹介手段として効果があったと考えられる。 		
課題、改善提案等	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムは今後の閲覧者の増加とツイッターとのすみわけが課題である。 ・報道提供についてはルーティン化を進めて、行事等もっと積極的に出していく必要がある。 		

2. 堺に関する独自資料として、地域資料に加えて行政資料を収集・公開する仕組みを構築し、電子図書館のコンテンツとして堺の情報の発信と継承に貢献する。			
サービスの具体的な方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。	
目的	堺市独自の電子図書館資料として行政資料を収集・公開する仕組み構築し、堺の情報の発信と継承に貢献する。		
内容	行政部門の各部署が作成した計画・要覧等の行政資料を堺市独自の電子図書館資料として収集し、公開する業務プロセスを構築する。		
効果	毎年定期的に作成される行政資料を電子図書館で体系的・網羅的に収集・公開することで、紙媒体の図書館資料と一括して検索できる仕組みが構築される。従来図書館で紙媒体でしか提供していなかった行政資料がデジタルで公開されることで、市民に限らず国内外の人々が堺のことを知り、学ぶことができるようになる。		
指標	堺市独自資料の公開件数・閲覧数、地域資料のEレファレンス件数を成果指標とし、前年度比により効果測定を行う。		
実施結果	堺市が作成し著作権を有し公開する行政資料を電子書籍化し、堺市立図書館のウェブサイト上に設置する電子図書館で閲覧できる環境を整備するため「堺市立図書館 行政資料電子書籍化事業 実施要項」を制定して庁内にも協力を呼び掛けた。現在1点の行政資料の電子化を計画。他に地域資料7点と図書館報「ゆづりは」を電子書籍化。		
効果検証	①妥当性	○	ICT化の推進等で行政資料のペーパーレス化が進んでいるなか、行政資料を収集、電子書籍化の上、図書館ホームページにある電子図書館で公開することにより、堺市の情報を広く周知することができる。
	②インパクト	△	堺市の電子図書館上で公開。ホームページ上にもお知らせを掲載。
	③効率性	○	電子図書館で公開することにより、場所、時間を問わず堺のことを知り、学ぶことができるようになる。
	④協働の視点	○	庁内連携により市の情報を広く発信する。
評価	<p>「図書館概要」「広報さかい」「区制要概要」の電子図書館での閲覧数は46回。2022年に発行した「ゆづりは」1～3号(1月末時点)の閲覧回数は合計47回。2021年に発行した「ゆづりは」1～4号の閲覧回数は合計37回であり、増加している。行政資料の電子書籍化は今年度実現には至らなかったが、要項を制定したことで電子書籍化を計画している資料があり、今後の電子書籍化を進め、広く利用してもらうための基礎が構築できた。</p> <p>地域資料Eレファレンス(メールによる問い合わせも含む、1月末時点)は32件で、昨年度の地域資料Eレファレンス27件に比べ増えており、デジタルアーカイブで資料を閲覧したうえでの問い合わせもあった。従来からある電子書籍の「歴史たんけん堺」などの閲覧回数も210回と多く、電子化・電子書籍化は地域資料を広く知ってもらえるきっかけとなっている。</p>		
課題、改善提案等	行政資料の提供を呼び掛けているが、まだあまり数は多くない。すでに実現しているものや現在計画中のものをきっかけに、他の行政資料の電子書籍化を進めていく。		

3. ホームページコンテンツの追加、見直し			
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。		
目的	障害者や日本語を母語としない人にも学びやすい環境を作る。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページに多言語による利用案内を掲載し、資料の紹介を行う。 ・図書館ホームページに音声による利用案内を掲載し、利用しやすいよう内容の整理を行う。 		
効果	日本語を母語としない人や、視覚に障害のある方にも図書館の利用方法を理解してもらえ、図書館の利用につながる。		
指標	全館の外国語資料の貸出点数 電子図書館の音声対応資料の貸出数		
実施結果	<p>ホームページの見直しを行い、「利用案内」には「目次」「貸出カードの登録の方法」「英語版利用案内」を追加、点字図書館のリンクを追加。従来から掲載している「やさしいにほんご」の利用案内は内容の改訂を行った。紙ベースの利用案内の英語版を更新し、情報量を増やした。</p> <p>また、イベントページは館ごとに分けられるように更新し、新たな事業や行事などはスライドバナーを使ってPRした。予定していた音声案内はホームページ全体の構成の見直しが進まず掲載できなかったが、目次を整えることにより音声読み上げ機能からのアクセシビリティを向上させた。</p> <p>ホームページコンテンツからは離れるが、他に日本語を母語としない市民に向け、国際交流プラザにおいて「いろいろなことばのえほんのひろば」を大阪府、国際課と協働で実施。中国語、ベトナム語などの絵本の読み聞かせに52人の参加があった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	図書館を利用しようとする際にまず最初に見るであろうホームページを改訂することにより、より多くの利用につながる。外国語を母語とする人が、図書館の外国語資料を知り、利用につながる。
	②インパクト	△	各館で外国語資料の蔵書を増やし、コーナーを設置する等した。
	③効率性	△	利用案内ページの更新により情報にたどり着きやすくなり、市民の利便性向上に資した。
	④協働の視点	◎	「いろいろなことばのえほんのひろば」は大阪府、国際課と協力して実施
評価	<p>場所区分が「外国語」となっている資料の貸出回数はR3年度5044回、R4年度4702回(1月末時点)である。電子書籍の音声コンテンツの貸出回数は令和3年度218回、令和4年度(1月末時点)は243回と増加している。全体の蔵書点数も増加しているが、まだ外国語資料、音声コンテンツともにまだ資料を所蔵していることへの認知が低く、利用につながっていないのではないか。</p>		
課題、改善提案等	<p>ホームページ全体の見直しを継続して進め、音声読み上げ機能等への対応を進める。また、英語以外の言語の資料も所蔵していることから、利用促進のためにも他の言語の利用案内の作成を進めていく必要がある。また、「いろいろなことばのえほんのひろば」は今年度得られたノウハウを生かし、堺区以外の区でもニーズを把握し、えほんのひろばを実施する。</p>		

4. 高校生や10代を対象とした事業の実施			
サービスの具体的方向性		⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	青少年にとって魅力的な事業や資料提供を実施することで、青少年がすすんで図書館を利用し、学ぶ場所として活用する。		
内容	青少年による本の紹介や、創作・情報発信の場の提供など、高校等と協同して事業を実施する。		
効果	同年代の参加する事業を行うことでその世代のニーズを把握し、青少年が魅力を感じる資料提供や企画等が実施できる。		
指標	事業実施回数		
実施結果	中央図書館ティーンズコーナーについて、8月に実習生による模様替えを実施。11月、大阪商業大学堺高校の生徒による「一人一棚」コーナーに模様替え。また、同高生徒の選定資料を選書に活かし、年度末に再度模様替えを実施する。		
効果検証	①妥当性	◎	来館・利用が少ない世代に対して、こちらから働きかけることで事業への参加を促し、同世代が魅力を感じるような書架を構築することができる。
	②インパクト	○	設置したコーナーは「高校生の頭の中」とタイトルをつけ、並べる資料は面展示を中心にし、高校生の直筆POPを飾り、来館者の興味を引くようにした。
	③効率性	○	高校生と協働することにより、効果的に同世代が魅力を感じる書架構成につながられた。
	④協働の視点	◎	大阪商業大学堺高校と協同して実施
評価	今年度は事業開始年ということで、これまで連携実績のある高等学校と事業を実施した。ティーンズコーナー貸出点数は令和3年度(1月末時点)で4033点だったが令和4年度4403点と増加しており、一定の成果はあったものとする。		
課題、改善提案等	大阪商業大学堺高校については、次年度は所在地である中図書館と連携をすすめる。中央図書館では、堺区所在の高等学校との連携を実施する。 instagram等、視覚に訴求する広報を実施する。		

○中区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	254,061 点	289,718 点	114.0 %
区民千人当たり	2,103 点	2,432 点	115.6 %
予約点数	11,478 点	11,718 点	102.1 %
区民千人当たり	95 点	98 点	103.2 %
レファレンス受付件数	3,807 件	5,260 件	138.2 %
区民千人当たり	32 件	44 件	137.5 %
来館者数(来館回数)	135,550 人(回)	147,532 人(回)	108.8 %
区民一人当たり	1.1 回	1.2 回	109.0 %

※中区人口 119,131 人(令和5年1月1日時点)

※中図書館、東百舌鳥分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・プラネタリウムや平和と人権資料館と連携した取組みを今後も大切にできるよう意見をいただいた。ソフィア・堺内の施設とさらに連携を強化し、相互に利用を活性化する必要がある。
- ・中図書館の中心的な利用者層に偏らない、あまり図書館を利用しない方も参加していただける講座の開催が求められている。
- ・中基幹型包括支援センターとの協力事業について評価をいただいた。今後も社会的課題である「介護」や「認知症」に関して積極的な発信を行う必要がある。

今年度の目標

市民の暮らしに役立つ資料・情報の提供に取り組むとともに、複合施設にある強みを活かし、図書館の利用が活発になるよう以下の取組みを実施する。

1. ソフィア・堺内の「プラネタリウム」や「平和と人権資料館」とともに、「中文化会館」や「教育センター」との連携も深め、相互に利用が活性化するよう取組みを進める。【 学ぶ力 】
2. 保護者向け講座を開催する。開催にあたっては、親子で取り組むことのできるテーマを設定し、普段図書館を利用しない保護者や児童の参加を促進する。【 学ぶ力 】
3. 中基幹型包括支援センターなどとの協力事業を継続して行う。【 育む力 】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 「ソフィア・堺」の各施設との連携の強化			
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。		
目的	ソフィア・堺内にある各施設と連動した取組みを実施し、市民が多角的に学ぶ機会を提供する。		
内容	ソフィア・堺内の中文化会館、プラネタリウム、平和と人権資料館などの企画と連携したブックフェア等の開催や各施設から図書館への誘導など、各施設と図書館が連動した取組みを実施。教育センターの教員研修時に中図書館の教育情報コーナーのPR出展を行う。		
効果	多角的な学びの機会を提供することにより、各施設と図書館の利用を促進し、相互の施設の利用活性化を図る。		
指標	ブックフェア等の取組みの開催数		
実施結果	ソフィア・堺内の施設と連携したブックフェア等の取組みの開催数は計 25 回(4～2 月)。 ・教育センター実施の教職員研修で、図書館の紹介及び見本資料の出張展示を実施(14 回)。 ・プラネタリウムの新作プログラムに合わせブックフェアの内容を更新(8 回)。また、プラネタリウムでも図書館を紹介。11 月の皆既月食ではプラネタリウム開催の天文教室でブックリストを配布。 ・平和と人権資料館が開催の企画「戦争体験者との交流会」を図書館でアピール。児童コーナーの平和特集棚に関連本のポップ展示を実施(1 回)。 ・中文化会館の文化講座に合わせたミニブックフェアを開催(1 回)。講座開催時に図書館の案内やブックリストの配布など相互協力。また、中区区民フェスタでは中文化会館と協働した取組みを実施(1 回)。		
効果検証	①妥当性	◎	ソフィア・堺内の施設の利用者に対して役立つ、図書館資料や情報の提供ができた。また、ソフィア・堺内の施設が相互に活性化することが大切である。
	②インパクト	○	中文化会館主催の講座や中区区民フェスタでのチラシ、プラネタリウムで、図書館をPRすることができた。
	③効率性	◎	ブックリストの配布や図書館のPRなどを他施設で実施してもらうことで、効率的に図書館を知る機会を増やした。
	④協働の視点	—	
評価	ソフィア・堺内の他施設の事業の情報を収集し、図書館側からブックフェアなど積極的にコンテンツの提供を申し出て連携を進めた。中文化会館でも図書館等の行事の案内板を設置していただけるなど、ソフィア・堺内の施設間で「相互に活性化しよう」という意識の共有が進んでいると感じる。また、12 月に西図書館で開催された「堺っ子読書フォーラム」で、プラネタリウムとの連携について担当者から発表を行い、アンケートなどで好意的な評価をいただいた。		
課題、改善提案等	ソフィア・堺内の施設と連携した取組みはさらに活性化する余地があると見込んでいる。既存事業のルーティン化や省力化、開催時期の分散化など、新たな連携事業の余力を生み出す工夫が必要と考えている。		

2. 保護者向け講座の開催		
サービスの具体的方向性		④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	市民に学びの機会を提供し、家族で一緒に考える機会を提供する。	
内容	保護者向け講座として「親子で学ぶ！『発見・堺市の自然』 知ることから始めよう生物多様性」講座を開催。保護者に Web サイト「堺いきもの情報館」を紹介し、子どもと一緒に堺の生き物への関心を高めてもらう機会をつくる。あわせて、8月の期間、図書館内で、生物多様性企画展(パネル展示)および図書館資料のブックフェアを行う。	
効果	子どもと一緒に学び考え、絆を深めていただくことで保護者の子育てを支援する。 また、普段図書館を利用しない方にも来館していただく機会を作るとともに、関連する企画展やブックフェアの開催を通じて、図書館の有用性を知っていただき利用促進を図る。	
指標	保護者向け講座の参加者アンケートにおける知識の深まり度合及び普段図書館を利用されていない方の参加の割合	
実施結果	8月7日(日)開催。定員15組(45人)に対し9組22人参加(当日キャンセル2組)。 事後アンケートでは、生物多様性の知識の深まり具合として、「とても深まった」「深まった」が計89%。また、普段図書館を利用されていない方の参加の割合は22%(2組)であった。	
効果検証	①妥当性	○ 堺の生物の多様性について保護者と子どもと一緒に学ぶ場を提供することは、親子間のコミュニケーションを高めてもらううえで大切である。
	②インパクト	△ 図書館ホームページや広報、館内ポスターなどで開催の周知に努めたが、結果的に定員に至らなかった。
	③効率性	○ 環境共生課と連携し、8月の期間、図書館内で実施した「生物多様性企画展(パネル展示)」と時期を合わせて開催することで、立体的な情報提供を効率的に行った。
	④協働の視点	○ 図書館サポーターさんに会場設営や受付を手伝っていただいた。
評価	「生物多様性」の説明から身近な生き物に関するクイズ形式で進み、子どもも保護者も熱心に楽しんで参加されていた。答えを話し合ったり、子どもの方がよく知っていたりする場面も見られ、保護者と子どもと一緒に学び合う機会を提供することができた。 数は少ないが、普段図書館を利用しない方にも来館していただくことができた。	
課題、改善提案等	「生物多様性」という言葉の難しさやポスターに具体的な講座内容の説明が少なかったためか、魅力を十分にPRできていなかったように感じた。講座内容が伝わりにくいテーマをどのように興味深く伝えるようPRするか、講座内容の説明の表現などポスター等での工夫が課題である。	

3. 中基幹型包括支援センターなどとの協力事業			
サービスの具体的方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。	
目的	専門機関と連携し、介護予防や認知症に係る支援情報や関連情報を市民に提供することで、要介護者や認知症の方又はその家族や介護者を支援するとともに、市民が関心をもつ機会を作る。		
内容	中基幹型包括支援センターと協力し、「認知症パネル展」「介護予防パネル展」を実施する。また、「認知症パネル展」の関連企画として親子で認知症に関心をもっていただくイベントや専門家を招いて家族の介護や自身の老後の不安やストレスを軽減するための「課題解決支援講座」を開催する。		
効果	要介護者や認知症の方又はその家族や介護者を支援するとともに、家族の介護や自身の老後に不安を抱える市民に介護制度やストレスに関する知識を深めていただく。		
指標	課題解決支援講座の参加者アンケートにおける知識の深まり度合		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に「認知症パネル展」を1か月間開催。また、9月24日(土)に関連イベント「認知症ってなあに？」を開催、参加者36人。 ・10月に「介護予防パネル展」を1か月間開催。 ・10月16日(日)に課題解決支援講座「予防が大事！ストレスと介護 ～今から準備。家族の介護、自分の老後～」を開催。定員40人に対し参加者19人。事後アンケートでは、「この講座を通じてストレスや介護に関する知識は深まりましたか」では、「ストレス・介護に関する知識は深まりましたか」として、「とても深まった」「深まった」が計89%であった。 		
効果検証	①妥当性	○	介護予防や認知症に係る支援情報とともに、ストレスへの対処方法を知っていただくことは当事者や家族にとって大切な支援である。
	②インパクト	△	図書館ホームページや広報、館内ポスター、関連イベントは当日の呼び込みなどで周知に努めた。関連イベントは一定の集客があったが、課題解決支援講座は定員に至らなかった。
	③効率性	◎	9月、10月に認知症や介護予防に係るパネル展やイベント、講座を集中的に開催し、効率性を高めた。
	④協働の視点	○	講座では図書館サポーターさんに会場設営や受付を手伝っていただいた。
評価	中基幹型包括支援センターと提案を出し合って取組みを進める体制が整ってきた。9月の関連イベント「認知症ってなあに？」は図書館棟1階のスペースを使用して出入り自由制の開催であったが、子どもを含め一定の集客があった。10月の講座は老後や家族介護に至る手前の方を想定していたが、参加者数が伸びなかった。		
課題、改善提案等	中基幹型包括支援センターと連携しての取組みは継続して実施していく予定。介護予防や認知症は重要なテーマであるが、その中でどう変化をつけて関心の高まる企画を出していくか、また、想定する対象者にその趣旨・意図が伝わるようどのように周知するかが課題と考えている。		

○東区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	263,571 点	302,552 点	114.8 %
区民千人当たり	3,103 点	3,575 点	115.2 %
予約点数	20,029 点	21,777 点	108.7 %
区民千人当たり	236 点	257 点	108.9 %
レファレンス受付件数	5,203 件	3,643 件	70.0 %
区民千人当たり	61 件	43 件	70.5 %
来館者数(来館回数)	156,863 人(回)	205,164 人(回)	130.8 %
区民一人当たり	1.8 回	2.4 回	133.3 %

※東区人口 84,635 人(令和5年1月1日時点)

※東図書館、初芝分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

・「魅力ある書架の構築」「関係部局との連携によるブックフェア」に関し、良い評価、および、さらに積極的な取り組みをとのご意見をいただいた。書架の維持は広範囲かつ継続的な業務であり、ブックフェアも「魅力ある書架」につながることから、いずれも計画的に行い、日常的に取り組む必要がある。また、広報の強化が必要であるという全体へのご意見があったが、東区ではTwitterの発信が少なく、日常的な業務や定例ブックフェアなどの広報を仕組化する必要がある。

・講座の実施については、事業の効率性という視点において自主評価では「見直し」としたが、対象者の意見を反映した講座企画の検討を望むとのご意見をいただいた。

今年度の目標

・東区の知の拠点として資料・情報の充実を図り、利用者の潜在的なニーズを満たすような機会の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成する。

1. 魅力ある書架の構築の一環として、地域資料コーナーの特設棚をリニューアルする。
2. 多様な課題の周知・解決のため、関係部局と連携してブックフェア等を実施。新たな機関との連携を企画し、既に連携がある機関とは内容のブラッシュアップを行う。また、ブックフェアに関するTwitterの発信回数を増やす。
3. 市民の学びのため、課題解決支援講座を実施。講座参加者アンケートでの満足度を80%以上とする。
4. 市民協働の推進のため、堺図書館サポーター倶楽部の活動支援を行う。サポーターステップアップ講座での満足度を80%以上とする。また、東図書館で活動するサポーターに対し、活動しやすい環境や機会を提供する。

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 魅力ある書架の構築			
サービスの具体的方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。	
目的	利用者が地域資料を選びやすい書架を作成する。		
内容	地域資料コーナーの特設棚をリニューアルし、特に東区やその周辺地域について調べやすい棚を増設する。		
効果	通常の配架では目立たない地域資料をとりあげ、別置することで利用を促進させる。		
指標	特設棚の貸出数(前年度比)		
実施結果	<p>・特設棚約 400 点のうち「東区いまむかし」約 70 点について総点検し、東図書館所蔵以外の資料も確認したうえで入替を行った。東区に関する論文が掲載されている逐次刊行物なども表紙に表示等をして追加した。</p> <p>・12 月～1 月にかけて地域資料コーナーの常設棚を一時移設し、OPAC横に設置した机上(12 月)・特設ブース(1 月)において「東区再発見」としてブックフェアを行った。</p> <p>・特設棚の個人貸出数 220 点【1月末現在】(前年度 126 点、前年度比 170%)。</p> <p>・総点検の過程でテーマ別ブックリストを作成した。解説などを付して年度内に発行・HPに掲載予定。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	前年度比 170%の貸出数と大幅な利用の促進があり、地域資料の存在を利用者にアピールできた。
	②インパクト	◎	ブックフェアは人気の高い『目で見える堺市の100年』などの写真集(特設棚以外の資料)を併置し目立つよう工夫した。特に特設ブースでは利用者が立ち読みをする姿が頻繁に確認された。
	③効率性	○	タイトルだけでは検索できない資料をテーマ別に展示したり、リストを作成したりすることで、利用者が目指す資料にたどりつきやすくなった。
	④協働の視点	—	
評価	前年度比 170%とはいえ、限られた資料数、もともと少ない貸出点数からいって、全体への影響は少ないが、ブックフェアの反響から利用者の潜在的な需要が感じられ、手間をかけても取り組むべき内容であった。		
課題、改善提案等	特設棚には「東区いまむかし」の他に「与謝野晶子」「千利休」「百舌鳥古墳群」などがある。東区ゆかりの作家「織田作之助」の追加など、テーマそのものの追加や入替等も今後は検討していく必要がある。		

2. 関係部局との連携によるブックフェア等の実施			
サービスの具体的方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。		
目的	多様なテーマに合わせた資料・情報を提供し、地域の課題解決をはかる。		
内容	<p>ビジネスパーソンや学生が多く利用する北野田駅前という立地を活かし、また、高齢化率が市内で3番目に高いという東区の特性にあわせて関係部局等との連携を行い、展示・ブックフェア等を実施する。</p> <p>新たな機関との連携を企画し、既に連携がある機関とは内容のブラッシュアップを行う。また、Twitterの発信を増やし来館を促す。</p>		
効果	様々なテーマで関係部局と連携して資料・情報を提供し、市民の学びの機会を増やすことで、地域の課題解決をはかる。		
指標	連携ブックフェア開催数、連携機関数		
実施結果	<p>・連携ブックフェア 9回【2月初旬現在7回】(東文化会館、環境共生課、東保健センター、東基幹型包括支援センター、環境施設課、黒山警察、登美丘高校／合同連携実施あり)</p> <p>昨年度に続き、東基幹型包括支援センターとは、「本とつながるパネル展」と題し、高齢者をターゲットとした連携ブックフェアを四回実施した。</p> <p>・連携機関数 8機関(上記7機関、東区企画総務課)</p> <p>・ブックフェア以外の連携</p> <p>読み聞かせ講座講師派遣、司書体験(登美丘高校)</p> <p>機関誌「技あり!元気めし!!」への原稿提供(東基幹型包括支援センター)</p> <p>市民向け乳幼児よみきかせ啓発動画の作成協力(東区企画総務課)</p> <p>・ブックフェア(連携なしのものも含む)に関するTwitterの発信数13【1月末現在】(前年度投稿数5、前年度比260%)</p>		
効果検証	①妥当性	◎	資料の貸出とあわせて、関係部局のパネル展示やパンフレット提供を行うことで、啓発や課題解決につながることを予測できる。
	②インパクト	◎	連携ブックフェアは退館時に必ず通る場所にある特設ブースでの展開が主であり視認性が高い。登美丘高校生徒作成のPOP(100点程度)と本を合わせたティーンズコーナーの展示は1年に1回の総入れ替えを行う常設展示だが、利用が多く、市民の声でも「大好きでいつも立ち寄る」と声が寄せられた【2月末入替予定】
	③効率性	○	東基幹型包括支援センターとのパネルとブックフェアの合同展示は二年目であり定例化してきた。昨年度の展示を参考にしつつ、関係者の紹介POPを追加したり、違う傾向の資料を集荷したりと、お互いに省力化しながら展示のブラッシュアップを行っている。
	④協働の視点	—	
評価	啓発課題をもった関係部局と連携することで、複合的な情報提供を実現しており、利用者の課題解決や情報入手の省力化に寄与している。		
課題、改善提案等	次年度は早めの調整で特設ブースの年間計画を行い、今年度行わなかったビジネスパーソンをターゲットとした連携を企画したい。		

3. 講座の実施			
サービスの具体的な方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。		
目的	市民の学びの機会を提供し、課題解決につなげる。		
内容	高齢化率が30%を超え市内で3番目に高いという東区の特性にあわせて課題解決支援講座を開催する。講座開催に前後してブックフェアや関連情報の提供を行う。		
効果	シニア世代が持つ課題の解決等につなげる。講座に関連した情報提供を行うことで、関連分野の利用促進を図る。		
指標	参加者アンケートにおける課題解決満足度		
実施結果	課題解決支援講座「スッキリ暮らす大人のかたづけーセカンドライフを楽しく快適に」の実施 ・アンケートによる満足度 参加者 29 人中 25 人が「満足」「まあ満足」と回答(86.2%) 「満足」11 人(37.9%)、「まあ満足」14 人(48.3%) ・アンケートによる課題解決度 参加者 29 人中 25 人が「役立つ」「まあ役立つ」と回答(86.2%) 「役立つ」15 人(51.7%)、「まあ役立つ」10 人(34.5%)		
効果検証	①妥当性	◎	目的とは合致しており、シニア世代の課題解決につながった
	②インパクト	◎	申込翌日には定員に達し、シニア世代以外からの問い合わせがあるなど、申込時から反響が大きかった。講座の満足度も高かった。
	③効率性	○	「終活」をテーマとした東基幹型包括支援センターのパネル展とブックフェアを広報時期にあわせた。また包括の成年後見制度の講演会とも相互に広報の協力をを行い、広報効果が高かった。
	④協働の視点	—	
評価	市民の関心が高いテーマの設定、シニア世代というターゲットのしぼりこみ、テーマにふさわしい講師の依頼(市の登録一覧から選定)を行うことができ、課題解決満足度の高い講座を実施できた。また、当初 50 冊からスタートした関連ブックフェアにおいては、頻繁に補充を行う必要があるほど利用が多く、資料面からも課題解決に寄与することができた。		
課題、改善提案等	今回は市民の関心が高く、課題解決にふさわしいテーマを企画したことで大きな効果があった。しかし、関心が低い・知られていないテーマでの開催も公共施設として意義あるものである。図書館の扱う資料・情報の幅広さを鑑み、大きな関心が寄せられると予測できないテーマでの企画も含め幅広く検討する。		

4. 堺図書館サポーター倶楽部への活動支援		
サービスの具体的な方向性	⑧市民交流の場を作ります。	
目的	図書館や図書館活動に対して高い関心をもつ市民を増やす。	
内容	全館の堺図書館サポーターの知識とスキルを高めるため、堺図書館サポーターステップアップ講座を開催する。また、東図書館における堺図書館サポーターに対し、定期的な活動を計画し、新しく入会された方に声かけするなど活動しやすい環境や機会を提供する。	

効果	堺図書館サポーターの知識やスキルを高めることで、図書館や図書館活動に対し高い関心や愛着をもつ市民を増やすことができ、そうした市民同士の交流が地域の文化活動を支える基盤となる。		
指標	参加者アンケートにおける満足度、課題解決度(ステップアップできたかどうか) 東図書館における堺図書館サポーターの、のべ活動人数		
実施結果	<p>図書館サポーター倶楽部ステップアップ講座(全館サポーター対象・定員 20 人)の実施 内容:紙文化資料の修復事業者による講座と修理実習</p> <p>・アンケートによる満足度 参加者 19 人中 17 人が回答。15 人が「とてもよかった」「よかった」と回答(88.2%) 「とてもよかった」9 人(52.9%)、「よかった」6 人(35.3%)</p> <p>・アンケートによる課題解決度(ステップアップできたかどうか) 参加者 19 人中 17 人が回答。12 人が「とても効果があった」「効果があった」と回答(70.6%) 「とても効果があった」5 人(29.4%)、「効果があった」7 人(41.2%)</p> <p>図書館サポーター養成講座(東図書館・定員 6 人)の実施 ・参加者 5 人のうち 4 人がサポーター登録。東図書館で活動するサポーター活動 2 人増 東図書館における堺図書館サポーターの、のべ活動人数 ・【1月末現在 434 人】(前年度 329 人 前年度比 132%)</p>		
効果検証	①妥当性	△	ステップアップ講座は、経験の浅いサポーターの課題解決度が低かった。
	②インパクト	△	ステップアップ講座は、①妥当性の記述とは逆に、経験の長いサポーターにとっては課題解決度が高かった。修復の専門家に講師を依頼したが、質疑応答が活発に行われ、熱心に実技を学ぶ姿が見られた。
	③効率性	○	日常の活動においては、定期的な場の提供と活動しやすい雰囲気づくりで、活発に活動が行われており、図書館のサービス業務に寄与している。
	④協働の視点	○	堺図書館サポーターは各館に所属し、代表も存在しない。組織として機能はしていないが、長く続いてきた形であり、楽しく活動を続けているサポーターも多い。
評価	<p>ステップアップ講座はステップアップ度が80%に届かなかったが、活動の長いサポーターにとっては有意義なものとなった。養成講座終了後は、活動の中で技術を学んでいくことになるが、その際のフォローはステップアップ講座で担うのではなく、別の方法を考えてもよい。</p> <p>日常の活動は活発におこなわれている。図書館や図書館活動に対し高い関心を持って活動している様子があり、図書館を有意義に活用している利用者であると考えられる。</p>		
課題、改善提案等	活動の浅いサポーターに対し、全館共通のマニュアルや、基本の修理に関する動画等を作成・共有するなど、養成講座とステップアップ講座の中間にあたるフォローが必要と思われる。		

○西区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	216,909 点	255,367 点	117.7 %
区民千人当たり	1,608 点	1,910 点	118.8 %
予約点数	11,924 点	11,629 点	97.5 %
区民千人当たり	88 点	87 点	98.9 %
レファレンス受付件数	3,105 件	2,050 件	66.0 %
区民千人当たり	23 件	15 件	65.2 %
来館者数(来館回数)	100,197 人(回)	117,638 人(回)	117.4 %
区民一人当たり	0.7 回	0.9 回	128.6 %

※西区人口 133,669 人(令和5年1月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・学びと交流の広場の利用を促進する取組みを通し、図書館利用を促進するとともに、利用者やグループ同士での交流につなげていく。
- ・専門家と連携した相談事業の開催や関係機関との連携によりブックリストを作成し、オンラインでの発信だけではなく、オンラインツールを利用しにくい市民を想定し、地域活動の場を利用したアプローチを行う。
- ・大学・医療機関との協力によるキャプション評価(環境評価手法)[※] 実施を施設改善に反映していく。

※施設を利用する人がそれぞれ気になる場所や物を写真に撮り、それらにキャプション(説明)を付けることにより、その場所(施設)の評価をする。参加・行動型の調査方法

今年度の目標

1. 関係団体と連携し「学びと交流の広場」で事業を実施し「学びと交流の広場」の利用を促進することで、図書館の施設利用につなげるとともに、市民の学びと交流を支援する。【育む力・学ぶ力】
2. 医療機関、教育・子育て関連施設と連携した事業実施、情報提供を行う。【育む力・学ぶ力】
3. キャプション評価などによる施設改善を行い、誰もが安全で快適な読書環境を享受できる運営を行う。【創る力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 関係団体と連携した事業実施	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	「学びと交流の広場」と図書館施設の利用促進。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協同で西図書館まつりを開催。 ・図書館事業協力団体等の主催行事や学習支援活動への協力。 ・近隣子ども園、子育てサークル等への訪問を実施し施設の利用を促進。 ・図書館関係活動及び市が主催する子育て関連事業のための場の提供。 ・学校図書館の協力を得てティーンズ向け資料展示実施。 ・「ほんのえき」資料の寄贈呼びかけ「みんなでつろう“え”ほんのえき」を実施。 ・「ほんのえき」に絵本原画展などのチラシやポスターを掲示・配備。

効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びと交流の広場」の利用促進。 ・図書館施設の利用促進。 ・乳幼児の「ほんのえき」利用増加及び「ほんのえき」資料の充実。 		
指標	事業開催数／来館者数		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協働し西図書館まつりを開催計247人参加、ボランティア主体の人形劇団シャボン玉が講座を開催計90人参加、3月には堺市子ども文庫連絡会イベント開催予定。 ・昔話勉強会が発足され定期的な集まりがもたれた。西区域にまつわる昔話をテーマとしたおはなし会の実施、こども司書に対して西区域の昔話の紹介を行うなど活動の展開がみられた。 ・子育てサークル、幼稚園への訪問は前年度より2か所増え7か所となった。おはなし会、講座を実施し図書館をPRできた。 ・ラーニングスペースを図書館関係活動及び西区子ども食堂代表者会議等の市が主催する子育て関連事業に提供。 ・高校との連携は出来なかったが、ティーンズ向け資料は図書館独自で選定してラーニングスペースに53冊展示。 ・羽衣国際大学へ訪問して、以前のような連携を再開できないか提案してきた。 ・「ほんのえき」への寄贈資料呼びかけ、現在、絵本を中心に750冊展示。 ・絵本原画展の案内ポスターやチラシを「ほんのえき」に掲示・配架したことで、よみきかせ等のボランティアの方々に関心を持っていただき、チラシを持ち帰られるケースがよく見られた。 		
効果検証	①妥当性	◎	学びと交流の広場の資料を充実させ、図書館利用も増え【学ぶ力】に貢献した。
	②インパクト	◎	来館者アンケート結果で施設の過ごしやすさの満足度が伸びていたのでインパクトはあった。
	③効率性	△	講座や訪問事業などの準備には時間と人員を費やしている。
	④協働の視点	○	ボランティア団体の協力を得ることができた。
評価	<p>「ほんのえき」の資料や展示の充実、関係者会議でのPRが功を奏し、「学びと交流の広場」での事業開催数18回(前年度8回 定例事業除く) 来館者数117%と増加し、利用促進につながった。</p> <p>ラーニングスペース利用前年度比170%増(ただし前年度は令和4年1月オープン)し、徐々に利用が広がり学生だけでなく一般の利用も見られる。仕事帰りに利用されている方が「ここは落ち着くので少しの間本を読んで過ごすことを楽しみに来ている」と言われた。サードプレイス的な使い方をしていただけのように感じた。</p> <p>・ボランティアの方々からは練習や勉強会、定例会を快適に行うことが出来るようになったとの感想をいただいた。</p>		
課題、改善提案等	相互の交流を進めるため、効率的な事業を増やしていく。		

2. 医療機関、学校、地域施設と連携した事業実施、情報提供			
サービスの具体的な方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。	
目的	暮らしに役立つ情報を提供する。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室の健康子育て相談事業の定期開催。 ・専門家と連携したブックリストの作成と地域へのPR。 ・地域子育てサロン、学校、保健センター、地域包括支援センターの事業への読み聞かせや出張講座、ブックトーク、資料展示の実施。 ・健康福祉プラザ、国立がん研究センター、堺市立総合医療センターとの連携事業における医療情報提供。 		
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家と連携した情報提供により地域住民の健康増進への意識を向上。 ・地域施設での出張講座等を通じて読書活動、図書館利用を促進。 ・「学びと交流の広場」の利用促進。 		
指標	行事参加者数／来館者数／レファレンス件数		
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室の健康子育て相談事業の毎月定期開催。計80組参加。 ・専門家と連携したブックリストの作成テーマ「口と歯の健康」「自律神経」。 ・地域子育てサロン5か所、保健センター主催多胎児サークルにて絵本紹介。マタニティスクールでの子育て支援資料展示。地域包括支援センターの事業へのブックトークや終活カードゲーム体験会等計3回、出前講座(絵本について)2回、子育てフォーラムでの資料展示の実施。 ・12月に健康福祉プラザ、国立がん研究センター、堺市立総合医療センターとの連携事業障害者週間フェスティバルにおける医療情報パネル展示。 ・5大がんのブックリストの改訂 		
効果検証	①妥当性	◎	来館者アンケート満足度調査 4.1 で向上。【育む力・学ぶ力】に貢献。
	②インパクト	◎	子育てサークル等へ訪問して、読み聞かせ等を行う機会が増えたことで、区内での図書館サービスが周知されてきている。
	③効率性	△	職員出張増により館の運営人員の調整が必要だった。
	④協働の視点	○	まちの保健室は大阪府看護協会と、専門家と連携したブックリスト作成ではこれまで関係してきた病院と協働。
評価	<p>様々な地域への訪問活動に効果があり、図書館の行事参加者数502人(定例行事除く)と利用が活性化している。来館者数 117,638 人と前年度を上回り事業が利用促進につながっている。レファレンス件数 2,050 件と前年度を下回っており、次年度に向け改善の方策が必要。</p>		
課題、改善提案等	ニーズにあった相談事業を実施するためにも、各種事業を行う職員の資質向上のための研修の実施が必要。		

3. 読書バリアフリーの観点から読書環境を改善			
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。		
目的	誰もが図書館を利用しやすいよう環境改善やコーナーづくりを行い、読書バリアフリーの観点をもって読書環境を改善する。		
内容	<p>・6月7日に浅香山病院認知症疾患センター若年性認知症グループ、および関係者にキャプション評価をおこなってもらい、いただいた意見を参考にサインなどを変更。</p> <p>・LLブック等を選定・収集し常設のコーナーを設置。</p>		
効果	図書館の利用に不便を感じている若年性認知症の当事者目線からの意見を施設サインなどに反映することで、誰もが利用しやすい施設運営を行う。		
指標	施設満足度		
実施結果	<p>・6月にLLブックコーナーを開設。*LLブック：誰もが読めるようにやさしくわかりやすく書かれている本</p> <p>・障害のある方も図書館を利用しやすいように当事者に来館してもらいキャプション評価の手法を用いて意見を伺い、図書館施設の環境改善を行った。具体的には闘病記コーナーの本を、疾病毎に集めて配列し直し、同じ疾病の本を見比べやすく改善。また棚から飛び出していた写真集を利用の邪魔にならないよう移動し、低書架を採用して棚の上で本を広げられるようにした。サインも書架案内図を簡易なものとし詳しく書かれたものの2段階でご案内できるようにし、年配の方々の視線は床にいきがちであり、壁面表示より床に表示がある方が見やすいとの指摘を受けトイレの案内表示を改善。認知症の方や高齢者にとって安全で使いやすく改善したことにより、結果的に一般の利用者にとっても使いやすくなった。</p> <p>・9月にはなし室の換気調査を実施。これにより換気効果が実証できたため、従来通りドアを閉めて実演できるようになった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	市民の協力を得た環境改善で【創る力】に貢献
	②インパクト	△	キャプション評価者は浅香山病院や健康福祉プラザ職員など普段図書館をあまり利用しない方々であったが、それを受けて改善したこと(書架案内・トイレの場所表示等)は一般の利用者にとっても利便性が向上するものとなった。
	③効率性	○	図書館側では気づき難い視点での環境改善の提案が有効であった。LLブックコーナーを設置したことで、一般の利用者に対してそのような資料があることを認識していただけた。
	④協働の視点	◎	浅香山病院の若年性認知症の当事者など、普段は図書館を利用していない方々と図書館施設について検討できた。
評価	特集コーナーや大型本の配架の見直し、サインの工夫などの取組みにより施設満足度向上4.06(前年度3.85で0.21ポイント向上)し、読書環境改善につながった。		
課題、改善提案等	<p>普段接点のない方に図書館に来ていただきキャプション評価を行った。</p> <p>病院へは事前に訪問を重ね、認知症患者や患者会の方々との対話を行ってきた。関係作りのために図書館から資料を紹介・展示するとともに、関係専門職の方々にはワークショップを実施した。関係性を築くための準備に時間を要したが、良好な関係が築けた。継続して資料紹介や提供が出来る態勢づくりが課題である。</p>		

○南区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	456,760 点	522,106 点	114.3 %
区民千人当たり	3,322 点	3,904 点	117.5 %
予約点数	35,912 点	39,181 点	109.1 %
区民千人当たり	261 点	293 点	112.3 %
レファレンス受付件数	10,017 件	14,059 件	140.4 %
区民千人当たり	73 件	105 件	143.9 %
来館者数(来館回数)	252,622 人(回)	304,814 人(回)	120.7 %
区民一人当たり	1.8 回	2.3 回	127.8 %

※南区人口 133,742 人(令和5年1月1日時点)

※南図書館、榎分館、美木多分館を含む

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・地域ニーズや特性をふまえ、日本語学習資料や南区・泉北地域に関連する資料の提供を行ってきたが、さらに区民が身近に感じ、関心をもっていただけの情報発信、提供が必要である。
- ・ICTを活用した情報提供として、学習ルームの混雑状況を発信する「混雑ランプ」の運用を開始したが、図書館ホール・集会室の施設利用業務もデジタル化を推進する必要がある。

今年度の目標

- 「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を実現するため、「南区基本計画」・「SENBOKU New Design」に基づき、地域の歴史文化にふれる機会の拡充や子どもの読書活動の推進を通じて区の子育て、教育環境の充実に努める。
1. 地域の知の拠点としての蔵書構築に取り組む。【育む力・創る力】
 2. 歴史や文化にふれる機会を拡充する。【学ぶ力】
 3. 図書館ホール、集会室の施設利用業務について、ICTイノベーション推進室と連携し、行政サービスのオンライン化推進に向けた取組を進める。【学ぶ力】
 4. 区内関連機関を始め、他機関との連携に努める。【育む力・学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 地域の知の拠点をめざした多様な資料の収集、提供			
サービスの具体的な方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。	
目的	専門的資料や外国語資料、非売資料など特色ある資料を充実させることにより、思わぬ本との出会いの場を創出。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・分担収集分野を中心に主題を掘り下げた専門的資料の収集、提供。 ・英語多読資料コーナーの設置。 ・区内所在大学刊行物(紀要)コーナーの設置。 		
効果	普段書店では見かけることのない本との出会いの場となることで、新たな気づきや学びを得られ、図書館の魅力発信につながる。		
指標	ブックフェア実施回数、利用者アンケート満足度調査		
実施結果	<p>分担収集分野の7類のうち、高価であるなどの理由により、通常選定では購入しづらい美術全集や写真集について、出版社カタログや他自治体の所蔵状況等を参考に別途選定を行ない、合計202点を選定した。新たに選定した写真集については新刊棚にコーナーを作り展示しているほか、7類に関するミニブックフェアも5回実施した。昨年度に引き続き日本語学習資料の充実も実施した。</p> <p>また、英語学習に役立てるため、児童書語学関係のスペースに英語多読コーナーを新規に設置(122点)。引き続き(72点)を発注し充実を図っている。区内大学刊行物の収集までは到達できなかった。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	地域の知の拠点をめざし、市民の読書環境の充実のため書店では手に入りにくい資料を収集、提供している。
	②インパクト	◎	分担収集分野について、香道体験等のイベントとも連携して、三大芸道をテーマとしたミニブックフェアを実施し、多様な資料を紹介した。英語多読コーナーについてはホームページでの情報発信の他、ブックリストを作成中。
	③効率性	○	日本語学習資料同様、英語多読もコーナー化することで、利用目的に沿った資料を探しやすくしている。
	④協働の視点	—	
評価	美術全集、写真集、日本語学習資料、英語多読資料など、市民が普段書店では見かけることのない資料を提供することで、地域の知の拠点としての図書館の魅力発信につなげることができた。		
課題、改善提案等	特色ある資料を適切に選定するための情報収集について、時間、労力が必要である。情報収集先などのノウハウを保持しておく必要がある。		

2. 歴史や文化にふれる機会の拡充			
サービスの具体的方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。	
目的	区の重要取組のひとつである「子育て・教育環境の充実」をふまえ、子どもが主体的に参加できるイベントや歴史・文化の体験を通じて地域の魅力を実感するイベントを実施。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・考える力を伸ばす子ども向け体験講座の実施。 ・地域の歴史・文化を体験できる講座の実施。 		
効果	講演等の一方向のイベントでは得られにくい実体験を通じて、子どもの好奇心を育てる。また、体験を通じて歴史や文化をより身近に感じることができる。		
指標	参加者数、参加者アンケートの満足度		
実施結果	<p>子ども向けのイベントとして、南、梅、美木多でおたのしみフェアを実施。その一環として小学校5、6年生を対象として、大阪公立大学教授を招き、体験講座「遺伝子のヒミツ ～体験！植物からDNAをとってみよう！～」を実施、参加者は保護者含め29名。アンケートによる満足度100%。保護者と児童が協力して実験に取り組み、自らの手でDNAを採取できたことが好評であった。地域の歴史・文化を体験できる講座としては「はじめての香道～和の香りを学ぶ体験講座～」を実施、参加者16名に香道を体験していただき、アンケートによる満足度92%。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	こどもの科学への興味をかきたてる取組、また堺ゆかりの文化に興味を持っていただくための取組であり、体験を通じて科学、歴史文化をより身近に感じることができるものである。
	②インパクト	◎	おたのしみフェアは事前にロビー展示および図書館の外から見えるディスプレイを行って広報とした。また、「遺伝子のヒミツ」については対象年齢を限定した催しのため、近隣小学校へのチラシ配布を行うなどの広報につとめた。 「はじめての香道」では広報さかい、HP等のほか、泉北高速の各駅、区役所へちらしの配架を依頼し、受付当日午前中には満員となった。
	③効率性	○	参加者の好奇心を育む効果のほか、関連資料を紹介することで図書館利用にもつなげることができた。
	④協働の視点	○	おたのしみフェアはおはなし、読み聞かせ、人形劇のボランティアから多数の参加、協力を得て実施。講座についても図書館サポーター倶楽部に運営協力をいただいて実施した。
評価	<p>「遺伝子のヒミツ」は高学年向けの内容で実施したが、当日講師に寄せられた質問の内容やアンケート結果からも科学への興味を深める効果があったことがうかがえる。 「はじめての香道」では香道についての講義、組香体験を行い、香道とともに、関連する堺ゆかりの文化にも興味を持っていただくことができた。</p>		
課題、改善提案等	対象年齢を絞った講座は内容を充実でき、効果的であるが、集客に努力が必要である。今回行った小学校へのアプローチも活用していきたい。		

3. 図書館ホール、集会室施設利用のオンライン化推進に向けた取組の実施		
サービスの具体的方向性	⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。	
目的	図書館ホール、集会室の施設利用業務について、オンライン化をすすめることでのサービス向上をめざす。	
内容	ICT イノベーション推進室と連携し、行政サービスのオンライン化推進に向けた取組(システム化、運用、例規改正の検討調整等)を進める。	
効果	市の方向性である行政サービスのオンライン化の推進、オンライン化実施、運用開始できた際の利便性向上。	
指標	オンライン化進捗状況	
実施結果	文化施設予約システム更新のタイミングに合わせ、南図書館ホールの Web 申込および集会室の空き状況公開を3月末より開始する予定。	
効果検証	① 妥当性	◎ 受付業務の ICT 化、オンライン化は市の方向性と一致している。
	② インパクト	◎ 今回より、市の文化施設の多くが参加する施設予約システムに掲載することで、図書館ホール、集会室の周知利用につながるものである。
	③ 効率性	○ ホールについてはこれまでの来館予約に加え、Web から仮予約を行えるようになること、これまで電話での確認しかできなかった集会室空き状況を閲覧できるようになることで、市民の利便性向上につながるものである。また、市全体のシステム更新に合わせ参加することで、図書館の費用負担なく実施することができている。
	④ 協働の視点	—
評価	オンライン化については従前より課題と考え、ICT イノベーション推進室との情報交換を行っていたため、今回のシステム更新について早期から情報を得て、調整を進めることができた。	
課題、改善提案等	職員側の受付業務の運用が大きく変わるため、効率的に運用できるマニュアル化を進める必要がある。	

4. 区内関連機関を始めとする他機関との連携推進			
サービスの具体的な方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。	
目的	区の基本計画に基づき、昨年度に引き続き区役所、堺市立ビッグバン等の周辺施設、教育機関、関連機関等との交流や連携を継続実施。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所、保健センターとともにハッピーファーストブックの参加者アンケート実施。 ・ビッグバンを会場としたイベントの実施。 ・その他教育機関、関連機関等との展示やブックフェアによる連携。 		
効果	図書館外の関連機関と連携した事業やイベントを実施することにより、図書館サービスのさらなる周知を図るとともに、連携する機関を当館でも広報することにより、相乗効果をもたらす。		
指標	連携した機関数		
実施結果	<p>南区役所、南保健センターと連携してハッピーファーストブック事業についてのアンケート調査を実施中である。ビッグバンを会場とした事業実施については、企画をしていた「多言語えほんのひろば」について当館実施がかなわなかったため今年度は実施に至らなかった。</p> <p>その他の連携事業については、環境共生課と連携し、生物多様性企画展と関連ブックフェアを実施、南保健センターと連携し、食育に関するミニブックフェアを実施し、次年度も継続して連携、実施予定である。</p> <p>また、学校園との連携では、福泉中央小学校の図書室資料充実に向けての選書支援を実施、図書館見学案内を区内小学校に送付、希望した8校を受け入れた。他にも「ふるさと納税親子いっしょにえほんひろば」として7施設を訪問、他にも1施設に講師として赴いた。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	大学教員、専門家等との連携により、より深く、幅広い視点で資料の提供が可能となる。また、区では、基本計画に基づき、子育て支援、教育環境の充実に取り組んでおり、学校園や子育て支援施設と連携することで読書環境の充実を図ることができる。
	②インパクト	○	図書館資料のみならず、実物資料等の関連資料も併せて展示することで様々な情報提供ができる。来館による図書館見学を実施することで、動画のみではなく実際の図書館に触れ親しみをもつことができ、利用促進につながる。
	③効率性	○	関連機関と連携を図ることで、相互に広報でき相乗効果をもたらすことができた。
	④協働の視点	○	図書館見学は、図書館ボランティアの協力を得て実施した。
評価	ハッピーファーストブック事業については、年度内のアンケート調査を実施しているため、集計結果などはまだでないが、今後区とともに検証をすすめる。関連ブックフェアについては、図書館アンケートで「ブックフェアを続けてほしい」というコメントもあり、新たな資料との出会いのきっかけとなっている。また、子育て支援施設の訪問や小学校の図書館見学などを実施することで、子どもや保護者が実際に当館を訪れて本に触れ、図書館を知る機会を作ることができた。		
課題、改善提案等	引き続き、区役所や関連機関、ビッグバンなどの周辺施設との連携を図り、南区基本計画の取り組みである「子育て支援、教育環境の充実」に資する事業を実施し、図書館サービスの周知を図る。		

○北区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	344,797 点	394,105 点	114.3 %
区民千人当たり	2,161 点	2,486 点	115.0 %
予約点数	20,514 点	19,759 点	96.3 %
区民千人当たり	129 点	125 点	96.9 %
レファレンス受付件数	4,186 件	4,688 件	112.0 %
区民千人当たり	26 件	30 件	115.4 %
来館者数(来館回数)	135,547 人(回)	153,938 人(回)	113.6 %
区民一人当たり	0.8 回	1.0 回	125.0 %

※北区人口 158,503 人(令和5年1月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・ 昨年度設置した児童向けの参考図書を集めた「しらべるコーナー」をより良いものにしていくため、新しく出版された資料の把握に努めるとともに、子どもたちの興味のあるテーマに沿った資料選びをし、定期的に入れ替えを行っていく。
- ・ 子ども司書養成講座について、その場限りの集まりで終わるのではなく、受講修了者がその後も継続して活躍できるような仕組みを考えていく。
- ・ 利用者が来館しなくても参加できる事業により、利用者層の裾野を広げることにつながるよう、さらなるアイデアで取り組んでいく。
- ・ 子育てに役立つ情報について、SNS を活用して発信していく必要がある。

今年度の目標

新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、市民のくらしに役立つ資料・情報の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成する。

1. 子ども司書養成講座では、図書館の活用法をレクチャーし、本の楽しさを伝える。また、魅力ある書架づくりをすることで、子どもたちの読書支援につなげる。【 育む力 ・ 学ぶ力 】
2. コロナ禍で実施が困難になっている行事の代わりに、利用者が来館しなくてもできるサービスを実施することで読書活動の推進に努める。【 創る力 】
3. 子育て世代が必要とする情報や知識を提供できるよう「子育て支援情報コーナー」の充実に取り組む。また保護者向け講座等を実施して、子育て支援サービスに努める。【 育む力 ・ 学ぶ力 】

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. 子どもの読書活動の推進	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	子どもの主体的な学習活動の支援、図書館利用の促進。

内容	<p>子ども読書の日記念事業として小学校に訪問し、おはなし会を実施する。</p> <p>児童書の書架のレイアウトを変更するとともに拡張し、わかりやすく魅力ある書架づくりに取り組む。</p> <p>また、子ども司書養成講座を実施し、百科事典の使い方や図書館の活用法を伝える。子ども司書が活躍できる場を提供し、継続的な活動を支援する。</p>	
効果	<p>おはなしや絵本の実演をきっかけに、図書館や本の魅力を子どもたちに知ってもらう。</p> <p>子ども司書養成講座で本の紹介文を書いてもらい、HP等で紹介し、多くの人におすすめ本を知ってもらうことで、図書館の利用促進につなげる。</p>	
指標	<p>児童書の貸出点数</p> <p>子ども司書養成講座の参加者数およびアンケート回答数・子ども司書の活動回数</p>	
実施結果	<p>●子ども読書の日記念事業として2校を訪問。ボランティアおはなしはなたばの会の協力を得ておはなしや読み聞かせを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金岡小学校1年(5クラス)153人 6月17日(金) ・新浅香山小学校1～4年(4クラス)183人 6月22日(水) <p>●子ども司書養成講座の実施</p> <p>分類の説明、百科事典の使い方、本の紹介カードの作成方法などを講義。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月3日、4日、10日 10:00-12:00 ・認定者4人(定員6人申込者6人。2人は所用によりキャンセル) <p>●子ども司書活動</p> <p>前年までに認定した子ども司書も含めて以下の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月24日(土)「ブックフェアをしよう」参加者6人 <p>ブックフェア用資料の選び方について講義を行った後、実際に資料を選び、飾りつけも行った。その後10月の児童書ブックフェア「おなががすいたぞ」として147点を展示。通常のブックフェアと同程度の貸出があり、子ども司書の選書としては十分な成果があったと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月18日(日)「子ども司書サンタのおたのしみぶくろをつくろう」参加者5人 <p>資料を選んだあと、中にどの本が入っているかわからないようラッピングした「おたのしみぶくろ」を89袋作成。12月24、25日の2日間展示し、48袋貸出。残りは新年に20袋追加し、61袋を『本の福袋』として1月5日～11日まで展示。全て貸出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月4日にも活動実施予定。 <p>●児童書の書架移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりづらい場所から始まっていた9類を書架の先頭から始まるよう移動した。 ・多言語サービスに対応できるよう洋書絵本の棚を1.5倍に広げ、70点を中央図書館から移管することで226点に増やした。 <p>●「調べるコーナー」の拡充</p> <p>昨年度児童向け参考図書コーナーとして設置した。今年度は新規の主題資料の追加、類書の更新等で20点程度の受入を行った。</p>	
効果検証	①妥当性	◎ 子ども司書活動を2年、3年と継続して参加してもらうことで、より読書、図書館に関する知識がつくことが期待できる。
	②インパクト	◎ ツイッター、子育てアプリ等で事前に広報し、子ども司書活動の成果である館内ブックフェア等を実施した。講座内容や活動内容を図書館HPに掲載した。

	③効率性	○	学校、学年の違う子どもたちに参加してもらうことで、繋がりができるとともに、お互いに学び、刺激を受けることができる。
	④協働の視点	○	子ども読書の日記念事業では「おはなしはなたばの会」の協力を得た。
評価	<p>●児童書の貸出点数は1月末で202,561点。昨年度は3月末で225,081点。昨年は臨時休館があり、休館中の予約貸出や休館明けの大量貸出もあったため比較が難しいが、年間の貸出点数としては昨年度を上回る見込み。</p> <p>●洋書絵本の貸出冊数が昨年度の441点から701点に増加した。</p> <p>●子ども司書講座のアンケート回答者3人(1人は体調不良のため最終日欠席)全員「たのしかった」と回答。難易度は「難しかった」「ちょうどよい」「簡単だった」がそれぞれ1人ずつ。内容的には少し難しいと思われるレベルのことをしているが、今後も図書館のことを知りたいと思えるものになっていたのではないかと。</p> <p>●昨年課題としていた過去の子ども司書受講者に参加してもらっての活動がすでに2回行っており、3回目も実施予定である。1年通して活動ができたことは大変良かった。</p>		
課題、改善提案等	<p>子ども司書認定者の活動を今後も参加人数を増やし、継続していけるよう魅力あるプログラムを考えていく必要がある。また、経験年数が増えてきた子どもと新しく認定された子どものレベルの差も踏まえて、うまく運営していく必要がある。</p>		

2. 利用者が来館しなくても参加できる事業の実施	
サービスの具体的な方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	来館に不安のある方、来館が難しい方の利用促進と読書推進。
内容	図書館ホームページや電子申請を活用し、非来館イベントとして、投票企画や参加企画を実施する。広報は北区とも連携して実施する。
効果	ホームページなどを活用して、非来館イベントに参加してもらうことで、来館に不安がある、または来館が難しい場合でも図書館に親しんでもらうことができる。また北区のホームページ等でも発信することで、図書館を利用していない市民が図書館へ興味をもつ機会をつくることができる。
指標	開催数・参加者数 イベント参加者アンケートでの非来館イベントに対する評価
実施結果	<p>●昨年度から始めた図書館HP上から電子申請システムを使った非来館イベントを下記の通り行った。いずれも期間終了後に関連ブックフェアを行った。</p> <p>① 「観ても読んでも楽しめる！メディアミックス原作(6/14-7/11)」 ※映画化もしくはドラマ化された原作小説について、面白かった作品を投票形式で募る。 回答数—映画編 29件 (とてもよかった 21件 よかった 5件 どちらでもない 3件) ドラマ編 22件 (とてもよかった 17件 よかった 4件 どちらでもない 1件)</p> <p>② 私のイチオシ紹介します！第2弾(7/1-8/1)」 ※「家」「恋」「大逆転」の3つのテーマから選び、おすすめの本を1冊～3冊紹介してもらう。 回答数 22件 (とてもよかった 14件 よかった 7件 未記入 1件)</p>

	<p>③ どの本が読みたい？「新金岡子どもの本を読む会」で取り上げた本(8/1-9/15) ※これまで会で取り上げてきた本の中でどれが読みたいか投票してもらう。 回答数 14 件</p> <p>④ 観ても読んでも楽しめる！映画化原作（洋画編）(9/1-10/20) ※映画化された、外国の小説について、面白かった作品を投票形式で募る。 回答数 20 件（とてもよかった13件 よかった7件）</p> <p>⑤ 読んでおきたい！日本の名著(10/1-11/30) ※日本の名著を投票し、順位を決定 聞いたことはあるが、まだ読めていない日本の名著で一番読みたいものを決める。 回答数 25 件（とてもよかった9件 よかった13件 どちらでもない3件）</p> <p>⑥ 忘れられない世界の文学(11/1-1/4) ※世界の文学について、記憶に残っている作品や面白かった作品を投票形式で募る。 回答数 18 件（とてもよかった11件 よかった3件 どちらでもない4件）</p> <p>⑦ 新年に読みたいこの一冊！（12/1-1/18） 今まで読もうと思って読めていなかったが、新年に読みたい本を紹介してもらう。 回答数 8 件（とてもよかった5件 よかった3件 どちらでもない1件）</p> <p>●保護者向け講座(動画配信) 対面式に加え、動画配信を用いたハイブリッド方式で開催。大阪市立大空小学校初代校長を講師として招き、『「ほんとのこと」は、親にはいえない —子どもの言葉を生み出す対話—』をテーマに、子どもへの声かけやかかわり方について、講演いただいた。動画配信については、100人を超える応募があった。</p>		
効果検証	①妥当性	○	コロナ禍で図書館に来館しづらい方にも読書に興味を持ってもらえるよう考えた。
	②インパクト	◎	図書館HPのトップページに非来館イベントのバナーを貼り、参加へ導くようにした。
	③効率性	◎	年末、年始のシステム入替に伴う休館時にも投票や動画配信することができた。
	④協働の視点	○	「新金岡子どもの本を読む会」に関する投票企画では候補本の選定に協力を得た。
評価	<p>昨年度に続いて7件の電子申請システムを用いた投票企画を実施した。図書館ホームページだけでなくTwitterでも投票を呼びかけた。回答数の合計は158件。回答数は昨年と比べて特に増えたとは言えないが、アンケートの結果は概ね好評であった。投票期間終了後のブックフェアでは本がよく貸出されており、ネット上での参加者に紹介された本を実際の来館者が借りていくという構図が興味深かった。</p> <p>保護者向け講座の動画配信については、子育て中の保護者や教員等の視聴も多くあり、テーマに関心があるが、外出しづらい方々にも、情報を届けることができた。</p>		
課題、改善提案等	<p>コロナ禍で図書館でのイベントが開けない代替策として行ってきた。次年度以降コロナ禍前の状態に戻ってくることが予想される。イベントが図書館で開催できるようになれば、北図書館での直接投票と電子申請システムを用いた投票の両方で実施できるようになると考える。</p>		

3. 子育て支援サービスの充実			
サービスの具体的な方向性		④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。	
目的	子育て世代が気軽に来館でき、様々な情報を収集できる場として図書館利用を促進する		
内容	子育て関連資料を積極的に収集し、「子育て支援情報コーナー」でのミニブックフェアの実施等を通じて広く利用していただく。また保護者向け講座を実施し、子育ての参考になる情報を提供する。		
効果	子育て世代に向けて情報発信やコーナーの充実をはかることで、図書館の利用促進や読書推進につながる。		
指標	ミニブックフェアの開催数、子育て支援資料の貸出点数 保護者向け講座の参加者数・満足度		
実施結果	<p>保護者向け講座を対面式および動画配信のハイブリッド方式で開催。大阪市立大空小学校初代校長を講師として招き、『「ほんとのこと」は、親にはいえない —子どもの言葉を生み出す対話—』をテーマに、子どもへの声かけやかかわり方について、講演いただいた。対面式は定員 20 人のところ、申込者 22 人で受講者 17 人、動画配信については、定員 120 人のところ、申込者 101 人、再生回数 290 回に達し、参加者・視聴者からの満足度も高かった。</p> <p>子育て支援情報コーナーブックフェア実施回数 10 回(1 月末時点継続中)、北保健センターと連携した子育てに関するブックフェア実施回数2回「食育・歯の健康」「親子の健康」(2 月時点継続中)、子育て世代への図書館利用促進リーフレット配布。</p> <p>北区子育てフェスタへ参加し、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をボランティアと協働で行い、おすすめ本リーフレットを書店と協力して配布。</p> <p>連携: 北区役所子育て支援課および保健センター、企画総務課</p>		
効果検証	①妥当性	○	子どもと安心して訪れることができ、また、情報収集を図ることができる場所として、図書館内の子育て支援情報コーナーの充実を図り、関係部局と連携して有用な情報等を市民に提供することは必要である。
	②インパクト	◎	子育て支援関係のチラシや冊子などをブックフェアコーナーに配置するなど、相互に広報を図り、新規利用者の開拓と利用促進につとめた。イオンモール堺北花田で開催した北区子育てフェスタでは、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をボランティアと協働で行った。会場にある紀伊國屋書店と協力しておすすめ本リーフレットを配布し、図書館利用促進につながった。
	③効率性	○	子育て世代が訪れる子育て支援課や保健センターなど関係部局と連携し、図書館が子どもと安心して気軽に利用できる場所であることをPRすることができた。また、保健センターと連携したブックフェアの実施に加え、子育て支援情報コーナーでのブックフェアコーナーにおいても子育て情報の周知を図ることができた。子育て支援情報コーナーのブックフェアでは、テーマとは別に、子育ての不安を解消する一助となる資料など子育てに役立つ情報を配置することで、子育て世代の方が効率よく情報を獲得できるコーナーとなったと考える。

	④協働の視点	◎ 北区子育てフェスタでは、「おはなしと絵本の読み聞かせ会」をおはなしボランティアと協働して実施。会場で配布したおすすめ本リーフレットの紹介文においては、おはなし・読み聞かせボランティアのほか、さかい子ども司書や紀伊國屋書店の協力を得て作成した。
評価	<p>●北図書館の子育て支援情報コーナーの資料貸出点数は 7,378 点(2 月 1 日現在)。全館の利用数(38,043 点)の約 1/5 の貸出数を占め、他区域館と比較しても2倍以上の貸出数であり多くの需要があると考えられる。子育て支援情報コーナーのブックフェアは、「理解したい。子どものココロ」や「元気に身体を動かそう」といったテーマで毎月開催し、すでに 10 のテーマで実施した。自館資料 251 点、他館資料 274 点の合計 525 点を用意し、多くの利用者に資料提供できたと考える。北区子育て支援コーディネーターに子育て支援コーナーについて伝え、子育て支援の講座等で図書館に関して、ふれていただくなど、連携を強化した。今後は、図書館未利用者の利用促進を図るとともに、子育て世代のニーズを踏まえ、資料の収集や提供についてより工夫する必要がある。</p> <p>●保護者向け講座の参加者数及び満足度については下記の通り。</p> <p>【対面】申込 22 人 参加 17 人 アンケート回収 15 人(とてもよかった 13 人 まあよかった 1 人 未記入1人)</p> <p>【配信】申込 101 人 再生回数 290 回 アンケート入力 26 人(とてもよかった 22 人 まあよかった 4 人)</p>	
課題、改善提案等	<p>今後はペーパーレスの取り組みが一層必要となるので、子育て世代に向けて、Twitter 等で図書館の子育て支援情報コーナーについてより情報発信が必要となる。また、子育て世代のニーズに沿った資料を提供できるよう、また、子育て世代の図書館未利用者の利用促進のために、情報収集に努め、関係部局との連携も継続して図る必要がある。</p>	

○美原区

定量的指標	令和3年12月末時点	令和4年12月末時点	前年度比
貸出点数	182,767 点	205,025 点	112.2 %
区民千人当たり	4,868 点	5,576 点	114.5 %
予約点数	7,954 点	8,909 点	112.0 %
区民千人当たり	212 点	242 点	114.2 %
レファレンス受付件数	3,736 件	5,004 件	133.9 %
区民千人当たり	100 件	136 件	136.0 %
来館者数(来館回数)	67,519 人(回)	80,849 人(回)	119.7 %
区民一人当たり	1.8 回	2.2 回	122.2 %

※美原区人口 36,770 人(令和5年1月1日時点)

令和3年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・近隣に高校が2校ある、区役所や保健センターに近い、農業人口が多いなどの地域の特性に合わせて、ティーンズエリアや子育て支援コーナーの充実、農業関係資料の収集等に取り組んでいるが、図書館サービスの周知にはまだまだ課題がある。広報や連携による認知度向上と利用の増加をはかる。
- ・来館した利用者が利用しやすいよう、環境の整備を行う。意見をいただいたティーンズエリアの充実にも努める。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、安全・安心な環境で講座等の事業を実施する。

今年度の目標

新型コロナウイルス感染症の影響による利用の減少が大きい中、新規利用者を増やすとともに、来館した利用者の満足度向上と利用拡大を目的として、以下の取組を実施する。

1. 図書館外での図書館事業の情報発信を積極的に行い、より効果的に情報が届くよう既存の事業についても発信方法や内容の見直しを図る。
2. 書架の配置や内容について、現在の社会環境やニーズを鑑み見直しを行う。
3. 新型コロナウイルス感染症への対策による安心・安全を大前提とし、各行事を実施することにより地域の図書館の存在をアピールする。

【目標に向けた具体的取組み内容】

1. あらゆる機会を捉えて地域の図書館の存在をアピールし、新規利用者を増加させる	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	地域における利用ニーズをとらえ、図書館利用を増加させる。
内容	近隣の学校園や各施設、今年開業予定のららぽーと堺などとの新たな連携を図り、在住・在勤・在学者や近隣施設の利用者など潜在的利用者を実際の利用に結び付ける。
効果	地域住民や地域の施設を利用する市民等に、地域の知の拠点としての図書館の存在と生活の充実、課題解決に資する役割を認識してもらい、利用を促進する。
指標	連携先、連携方法の新規開拓 利用者数、新規登録者数

実施結果	<p>・読書環境の醸成を課題としていた美原中学校からの依頼を受け、1年生全員を対象とした図書館見学及び図書館資料を活用した夏休みの宿題支援、教員全員を対象とした研修を実施。</p> <p>・新規開業したらぽーと堺の美原まちなか文庫(美原区役所所管)への協力と、同コーナーにおける図書館情報コーナーの設置。</p> <p>・美原区役所企画総務課が企画しているららぽーと堺を会場にした文化・観光・子育て・健康に関する出前事業の一環として、キッズスペースでの絵本の読み聞かせを予定。</p>		
効果検証	①妥当性	◎	図書館の存在や有用性を知らない潜在的利用者に働きかけ、利用を促すことは重要である
	②インパクト	○	昨年度より利用促進ちらしの配布依頼をしているJAや、話題のららぽーと堺など、図書館でも公共施設でもない場所で図書館の情報に触れる機会を作った
	③効率性	◎	既存の配布物を活用するほか、新規に作成した対象別の利用促進ちらしも今後必要な箇所だけを更新しながら継続的に利用するため、効率性が高い
	④協働の視点	—	
評価	<p>●連携先、連携方法の新規開拓</p> <p>・美原中学校から1年生全員(4クラス・136人)が授業の一環として見学に来館、その後夏休み期間中に図書館を活用した宿題のために個別に来館と、2度来館した。教員はほぼ全員の30人が来館、2グループに分かれて見学ならびに団体貸出制度や授業に役立つ資料の紹介等の研修を受講した。受講後、熱心に質問をしたり紹介した本を借りて行ったりした教員もいた。</p> <p>・ららぽーと堺のフードコート内、子ども連れで利用できるスペースに隣接した場所に、美原図書館の利用啓発ちらしや行事カレンダーなど主に保護者向けの啓発物を置いている。図書館HPへの誘導のため、QRコードも掲示している。</p> <p>・中学校との連携は先方からの申し出を受けたものになるが、ららぽーと堺については図書館情報発信の場が欲しいこと等を折に触れて三井不動産との連絡窓口である美原区役所企画総務課に働きかけていたことが功を奏したものと思われる。</p> <p>●利用者数、新規登録者数</p> <p>・来館者数は令和3年度に比べ実数では増加(67,519人→80,849人)しているものの、臨時休館期間があったことを踏まえた一日平均では95.4%と増加していない。</p> <p>・貸出点数も同様に実数では増加(182,767点→205,025点)しているが一日平均では89.4%に留まった。</p> <p>・新しく貸出カードを作った人数も実数では増加(405人→440人)、一日平均では89.0%と減少しているものの、既に登録があり4年に一回のデータ更新をして利用を継続した来館者は870人から1,179人に増加しており、一日平均でも111.1%と増加している。しばらく図書館を利用していなかったが、利用を再開した利用者が一定数いたものと考えられる。</p> <p>・ららぽーと堺に設置しているちらしが目に見えて大きく減っている様子はないが、設置以降おはなし会等の定例行事への参加人数は増加しており、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて子連れで外出しやすくなったことも相まって、一定の効果を上げていると思われる</p>		

課題、改善提案等	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により減少した利用者が戻るのに時間がかかっている。</p> <p>社会が通常化を目指す中、今後の市の対策方針に沿いながら、コア利用者であったシニア層には引き続き安心安全な読書環境を提供するとともに、子どもには図書館見学や各行事など図書館と本に出会う機会を以前の状態に近づけていく。</p> <p>また、引き続き様々な機会を捉えて潜在的利用者に図書館の存在をアピールするため、連携できる機関や方法がないか常に意識して情報を得よう努める。</p> <p>今後はInstagramもTwitterやHPと併用し、特に子育て世代や若年層に向けた情報発信のツールとして活用する。</p>
----------	--

2. 各分野の書架の見直し		
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	来館した利用者が探しやすく使いやすい書架構成にすべく、根本的な見直しをはかる。	
内容	<p>出版状況、教育内容の変化により、子どもの知識欲を満たす・調べ学習に利用するための児童書が増加し、書架に収まらなくなっている状況を、一般書の見直しや空きスペースの調整を行うことで解消する。</p> <p>ティーンズエリアなどそれ以外の書架についても、利用者の利便性向上と職員の業務効率化の観点から見直しを図る。</p>	
効果	<p>現状に即した書架構成や、ゆとりのある見やすい書架づくりによって、利用者の利便性向上、ひいては利用促進に繋げる。</p> <p>職員にとっても排架や書架整理、資料請求の対応等がより効率的に行える。</p>	
指標	<p>児童書のうち、えほん・よみものではない主題のある資料の書架本数</p> <p>ティーンズエリア内特集棚の拡大、ブックフェアコーナーの目立つ場所への移動</p> <p>ティーンズエリアの貸出点数</p> <p>児童書の貸出点数</p>	
実施結果	<p>・大規模な書架移動を実施し、書架1本を一般書架から児童書架に変更した。</p> <p>それに合わせ古い資料の除架をおこない、一般書 2,521 冊、児童書 1,092 冊を除籍した。</p> <p>・ティーンズエリアの特集棚を整理し、今まで部活動支援を目的にスポーツに関する本を集めていたコーナーを吹奏楽や演劇等も含めた「部活動」コーナーに改編、特集棚を「進路」「進学」「部活動」「名作・古典」「人権」に分けた。</p> <p>主題のあるコミックのうち、上記のテーマに合致するものは特集棚に移動させた。</p>	
効果検証	①妥当性	○ 書架を魅力的な状態に維持することは来館するすべての利用者にとって必要なことであるが、とりわけ書架を見ながら読みたい本を選ぶ子どもにとってはより重要であり、見やすく使いやすい環境作りは必須である。
	②インパクト	○ 古い資料を抜いたことにより書架に余裕が生じて使いやすくなると同時に、比例して新しい本の比率が上がり書架の見目が明るくなった。
	③効率性	◎ 書架に余裕がなく排架しきれない資料が残っていた状態が解消されることで、排架作業だけではなく資料管理の面からも業務の効率化につながっている

	④協働の視点	○	日常の書架整理にはボランティアの協力を得ている
評価	<p>●児童書のうち、えほん・よみものではない主題のある資料の書架本数 1列分を増やし、18連から25連に拡張。 書架整理のボランティアからも、一般・児童ともに書架が整理しやすくなったと好評を得ている。</p> <p>●ティーンズエリア内特集棚の拡大、ブックフェアコーナーの目立つ場所への移動 ブックフェアに使用していた棚を変更し、特集棚を7連から8連に拡充。 ティーンズPOPふえすていばるのPOPと本の展示に使用していたコーナーでブックフェアを実施している。ティーンズエリアが比較的奥まった場所にあるため、大人の利用者など普段は利用しない層にもよく手に取られている。</p> <p>●ティーンズエリアの貸出点数・児童書の貸出点数 児童書及びティーンズエリアに排架している資料の12月時点での貸出点数は、全体の貸出点数同様に実数は1割以上の増加をしているが1日平均では1割前後の減少となっている。</p> <p>●そのほか読書環境充実のための取組 ・連携ブックフェア等のミニブックフェアに活用できるテーブルを設置した。 ・11月に実施した図書館アンケートで指摘のあった、椅子の座面破れやカーテンの劣化などに対応した。</p>		
	課題、改善提案等	<p>書架の配置変更は館内整理日等の休館日を利用して行うため、ティーンズエリアの整備は9月以降、児童書架の拡張は1月以降に実施したものであり、継続的に効果を見ていく必要がある。</p>	

3. 伊東静雄没後70年記念事業の実施	
サービスの具体的方向性	⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
目的	美原区にゆかりのある詩人に関する講演会等の事業を行うことにより、地域に対する関心を高めるとともに、地域資料の利用を促進する。
内容	晩年美原に居住し、その風景を歌った浪漫派詩人・伊東静雄の没後70年を迎えるにあたり、講演会など関連事業を実施する。
効果	本事業を契機として、利用者が地域の歴史や文化に関心を持ち、理解を深める。 地域資料コーナーや伊東静雄コーナーを周知し、利用促進に繋げる。
指標	関連事業の参加者数 講演会の参加者満足度
実施結果	<p>・講演会以前の関連事業として以下の事業を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊東静雄の初出雑誌の展示(～4月) 2. 美原図書館まつりで児童対象に「伊東静雄クイズ」を配布(11月) 3. 「手紙にみる伊東静雄」と題し、データを所有している伊東静雄宛の書簡の写真と翻刻、解説をパネルにして館内で展示(1月～) 美原区役所1階ロビーでも展示予定(3月)

	<p>4. 初版詩集(安西冬衛への献辞入りなど)の展示(1月～)</p> <p>5. 美原図書館で活動する読書会「美原読書友の会」会員から好きな詩の一節を募り、ブックフェア「わたしの一行」として著作や関連書籍とともに展示(2月)</p> <p>6. 伊東静雄の詩の一節を選び、10回に分けてTwitterで紹介(2月～)</p> <p>・講演会は大阪の文学者に造詣が深い大阪文学振興会総務委員の高橋俊郎氏と、本市で学芸員として長く勤務しておられる文化財課職員の井溪明氏を講師に、「没後70年 詩人・伊東静雄と美原」と題し3月19日に開催予定。</p> <p>・隣接する書架を整理し、地域資料コーナーを拡充したことにもない、「美原コーナー」も拡充して見やすいレイアウトに変更した。今まで作成した冊子「美原を知る」3種類も同コーナーに移した。</p>	
効果検証	①妥当性	◎ 地域にゆかりのある作家について知識を深め、郷土の歴史や価値を幅広い層に認識してもらうことは重要である。
	②インパクト	○ ほぼ通年で関連事業を展開したことにより利用者が目にする機会を増加させた。図書館HPやTwitterでも積極的な情報発信を行った。
	③効率性	○ 中央図書館の資料も含め、所蔵している資料やデータ等を効果的に活用した。
	④協働の視点	◎ クイズの配布は図書館まつりの運営に協力しているボランティア団体の方々が担った。読書会の会員から「わたしの一文」を寄せてもらいブックフェアで展示した。
評価	<p>●関連事業の参加者数・講演会の参加者満足度</p> <p>・講演会は記載時点で未実施であるため参加人数やアンケート満足度は不明であるが、パネル展示の広報などで早い段階から3月に講演会を実施すると予告しており、問い合わせが寄せられるなどしている。</p> <p>・詩の紹介のほか、パネル展示、ブックフェアの際には図書館HP、Twitterでの広報を実施した。「伊東静雄クイズ」の実施についても美原図書館まつりの広報の際に記載した。</p> <p>・冊子を作成して以来、地域理解に資する子ども向け事業をあまりしてこなかったが、冊子を読んだり図書館前の碑を見たりして答えがわかる「伊東静雄クイズ」を実施したことにより、子どもにも働きかけができた。25人が参加、中にはクイズを手にも手に館内を探している子の姿を見て「私もしたい」と声をかけてくれた児童もいた。</p> <p>・2月ブックフェアでは「わたしの一文」をPOPにしたもののほか著作等15冊程度を展示しているのに対し、10日が経過した時点で8冊の貸出があり、随時追加を行っている。</p> <p>・冊子「伊東静雄を知る」を資料展示やブックフェアの際にも手に取れるようにしており、60部以上が持ち帰られたため増刷した。ほかの「美原を知る」冊子(黒姫山古墳、河内鋳物師)も美原コーナーに設置したことでよく利用されるようになった。</p>	
課題、改善提案等	<p>今後も伊東静雄や河内鋳物師など地域ゆかりの人物や事象を継続的にアピールしていくため、効果的な手段の検討や職員の研修が課題である。</p>	